

## 議 事 録

|             |  |
|-------------|--|
| 会 議 名       | 令和6年第2回刈谷警察署協議会（定例会）   |
| 日 時 ・ 場 所   | <p>令和6年6月21日（金）<br/>午後2時50分から午後4時30分までの間</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p style="text-align: center;">刈谷警察署講堂</p>  |
| 出 席 者       | <p>1 委員<br/>           森 繁俊会長      青木 健治副会長<br/>           深谷 晴紀委員    大見 浩明委員<br/>           神谷 友理委員    奥野 櫻子委員<br/>           佐藤 久美子委員 野村 昇司委員<br/>           武田 直也委員</p> <p style="text-align: right;">以上9名（定数10名）</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>2 警察署員<br/>           藤嶋署長 成瀬副署長 中島警務課長 青山会計課長<br/>           山田生活安全課長 東條地域課長 神田刑事課長<br/>           山口交通課長 伊藤警備課長 田ノ上刑事課長代理</p> <p style="text-align: right;">以上10名</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>3 有識者等<br/>なし</p> |
| 諮 問 事 項 等   | 「優秀な人材の確保、採用活動について」  |
| 答 申 等 の 概 要 | <p>1 警察官が「特別」で「格好良い」職業であることを宣伝<br/>           広報する</p> <p>2 交番勤務の警察官が採用担当者の意識を持って街頭活動<br/>           する</p> <p>3 採用活動の推進（女性登用枠の拡大）</p>   |
| そ の 他       | 次回開催予定 令和6年8月下旬ころ  |

|              |  |
|--------------|--|
| 会議の経過及び発言の要旨 |  |
| 1            | 開会   |
| 2            | 委嘱状の交付   |
|              | 署長から第1回警察署協議会を欠席した委員に対して公安委員会の委嘱状を交付した。  |
| 3            | 新委員挨拶  |
| 4            | 会長挨拶   |
| 5            | 署長挨拶   |
| 6            | 警察署幹部紹介  |
| 7            | 前回の答申に対する取組結果説明  |
|              | (1) 諮問事項   |
|              | 警察に求める災害対策   |
|              | (2) 答申事項   |
|              | ア 災害発生時における緊急輸送道路等の交通の確保   |
|              | イ 被災地に現れる泥棒等の二次被害防止対策  |
|              | ウ 被災地で警察活動を維持するための資材、備蓄食料等の確保  |
|              | (3) 答申に基づいた施策の推進状況   |
|              | ア 答申事項アについて  |
|              | (ア) 主要道路の被害確認や安全確認は、その後の救出救助活動に大きく影響することから、緊急交通路として使用が予定されている道路の状況は、橋りょう部を中心に通行に支障がないかを優先的に確認する。 |
|              | 収集した情報は警察本部で集約し通行可能路線を確保する。  |
|              | (イ) 通行可能路線は、災害救助等を目的とした警察や消防の緊急車両、   |
|              | 記録者  |
|              | 警務係長   |

|   |                 |
|---|-----------------|
| 会議の経過及び発言の要旨  |                 |
| <p>自衛隊や民間事業者等の除外規制車両を優先して通行させるために交通検問や通行禁止等の措置を実施する。二次被害防止のために、交通規制情報や緊急通行車両以外の車両使用の自粛を広報する。</p>                        |                 |
| <p>イ 答申事項イについて</p>  |                 |
| <p>(ア) 被災地で発生する犯罪については、空き巣等の窃盗や家屋修理に伴う詐欺、SNS等で虚偽の情報を発信する業務妨害等がある。</p>   |                 |
| <p>(イ) 警察は、窃盗の抑止、検挙のため空き家屋や閉店中の商業施設を警戒する。また、警察官が避難所等を訪問し、被災者が虚偽の情報に惑わされることのように、正しい情報を発信するとともに避難所で犯罪を起こさせない環境づくりを行う。</p> |                 |
| <p>ウ 答申事項ウについて</p>  |                 |
| <p>(ア) エンジンカッターやチェーンソー等の救出救助資機材を備えるとともに定期的に資機材の点検や使用訓練を行っている。</p>   |                 |
| <p>(イ) 食料等の支援を受けなくとも活動が行えるように、一人当たり食料は5.6日分、飲料水は4.5日分備蓄するとともに、賞味期限の切れた飲料水を生活用水用として2,400リットル備蓄している。</p>                  |                 |
| <p>(ウ) 刈谷警察署では災害の備えとして、非常用発電機を備え、停電時に無線や照明等の電力を確保し、警察機能を維持できるようにしている。</p>   |                 |
| <p>また、刈谷警察署が倒壊等で警察署としての機能を喪失した場合に備え、刈谷市役所の会議室で警察業務が行えるように市役所と覚書を交わすとともに、民間企業とも食料支援等7分野において支援協定を結んでいる。</p>               |                 |
|   | <p>記録者 警務係長</p> |

|   |      |
|---|------|
| 会議の経過及び発言の要旨  |      |
| エ 答申事項に対する委員の意見   |      |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 避難所での犯罪防止についてはパトロール隊が連携できるのではな<br/>いかと思う。</li> <li>・ 能登半島地震では、道路が段差だらけで自動車が通行できず、携帯<br/>電話やカーナビも使用できなかつたと聞いている。交番の警察官が状<br/>況把握することが重要なので強化してもらいたい。</li> </ul> |      |
| 8 諮問  |      |
| (1) 諮問事項  |      |
| 優秀な人材の確保、採用活動について   |      |
| (2) 諮問事項の設定理由（警務課長説明）   |      |
| ア 昨今の警察官及び警察職員の採用は、民間企業の採用が活発であり、<br>少子高齢化に伴う就職適齢人口の減少により、非常に厳しい状況が続い<br>ている。   |      |
| イ 採用試験を受験してもらうために、若者がよく利用するLINE、X<br>等の広報ツールを利用した広報や、駅や学校等における採用広報ポスタ<br>ーの掲示、各種就職説明会に出展するなど採用に向けた各種広報活動<br>を推進している。  |      |
| ウ 中・長期的な採用活動として、小中学校における出前授業や職場体験<br>等のキャリア教育を積極的に推進し、警察業務の魅力、やりがいを伝え<br>ている。   |      |
| 9 協議  |      |
| 委員 ・ 警察の求める人材とは何かを明確にしてほしい。   |      |
| 記録者   | 警務係長 |

| 会議の経過及び発言の要旨 |   |
|--------------|---|
| 警察           | ・ 一定の学力、体力及び志の高さ等を持った人材である。   |
| 委員           | ・ 警察官は特別な仕事であるので、警察官になりたいという気持ちの強い人になってもらいたい。警察官になりたい気持ちがなければ警察官になっても離職してしまうのではないか。（他に同様の意見の委員2名）   |
| 委員           | ・ 警察のイメージアップを、以前はよくテレビで警察を題材としたドラマをやっていて、イメージアップにつながっていたと思う。  |
| 委員           | ・ 警察は消去法で選んでほしい仕事ではない。  |
| 委員           | ・ 警察は広報が下手、災害時に真っ先に現場に行くのは警察であるのに、災害救助は後から出動する自衛隊がしている印象がある。<br>自衛官を希望する者には震災のときに助けてもらった者や震災で活動する自衛隊をニュースで見てという者もいる。<br>全国の警察官が被災地で活動していることをアピールすべきである。 |
| 委員           | ・ 新聞で、岡崎警察署で警察官が小学生、中学生に剣道の指導をしているとの記事を見た。小学生や中学生が警察官を身近に感じることができ良い取組だと思う。（他に同意見委員1名）   |
| 委員           | ・ 警察官は小学生ではなりたいた職業の上位にあるが、学年が上がると下がっていく。  |
| 委員           | ・ 交番で地道に働いている交番員の姿は十分広報になっている、子供の憧れる職業であり続けることが、採用につながるのではないか。  |
| 委員           | ・ 少子高齢化が進み14年後には警察官の平均年齢が50歳を超えると   |
|              | 記録者 警務係長  |

|   |  |
|---|--|
| 会議の経過及び発言の要旨  |  |
| 聞いた。今後は人材確保のために女性のさらなる登用が必要になる  |  |
| と考える。   |  |
| 委員  | ・ 近年の受験倍率が3倍とのことであるが、3倍もあれば十分ではないか。民間企業もなかなか採用したい人材が獲得できず苦労している。             |
| 委員  | ・ 採用対象となる世代は、他人と競争しない、出世意欲がない、承認欲求が強いという傾向がある。                               |
| 委員  | ・ 警察にはいろいろな部門があるが、配属の仕組みがわからない。本人の希望や適正にあった部門配属や専門職としての採用など、配属をわかりやすくしてはどうか。 |
| 警察  | ・ 情報技術や語学の知識を有する方を専門職として採用している。  |
| 委員  | ・ 受験倍率が3倍あるうちに何とかすべきである。   |
| 委員  | ・ 優秀な人材を確保するのではなく、優秀な人材に育てる方針に転換してはどうか。（他に同意見委員1名）                           |
| 10 答申   |  |
| (1) 警察官が「特別」で「格好良い」職業であることを宣伝広報する                                     |  |
| (2) 交番勤務の警察官が採用担当者の意識をもって街頭活動する                                       |  |
| (3) 採用活動の推進（女性登用枠の拡大）   |  |
| 11 その他  |  |
| (1) 次回開催予定は令和6年8月下旬とする。   |  |
| (2) 委員から、鹿児島県警の事案について憤りを感じている。愛知県警では同種事案が起こらないようなシステムを作ってほしいとの要望があった。 |  |
| 記録者   | 警務係長   |